

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	放水中に手から離れた管鎗により、消防団員が頭部を受傷した事案
3. 体験した事例の中心的要素	出勤から模擬火災建物へ放水を行う想定消防団演習で発生。 機関員は揚水を行い、筒先員はホースを延長した。放水を開始するが、キンクが発生しスムーズに通水しなかったため、圧力を過度に上げたことで筒先員が保持できなくなり、暴れた管鎗が筒先員の頭部を受傷させたもの。
4. 体験した事例の原因・理由	ポンプ車機関員の訓練時における緊張と、ホースの展張の不備

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。(大丈夫だろうと思った。)
------------------	------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和5年5月28日 午前10時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：施設敷地内の車両通行道路(舗装)
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	飛来・落下ぶつにぶつかる
7. 事例体験時の活動	演習訓練、[火災]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	ポンプ隊訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[35]歳、勤続年数[5]年、現場経験年数[5]年、階級[団員] 同様の活動[過去に1,2回程]、任務[隊員]
○当事者B	年齢[46]歳、勤続年数[19]年、現場経験年数[19]年、階級[班長] 同様の活動[1年に数度]、任務[機関員]
○当事者C	年齢[53]歳、勤続年数[25]年、現場経験年数[25]年、階級[部長] 同様の活動[1年に数度]、任務[車長]
○その他(当事者が4人以上の場合)	当事者Aの筒先員の補助員として当事者D(年齢40歳、勤続13年、階級は団員)

11. 事例発生経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A～D	訓練想定火災建物近くにポンプ車を停車	
経過2	当事者B	組立水槽へ吸管を投入し揚水準備	
経過3	当事者A	管鎗を持ち火点近くへ	
経過4	当事者D	65mmの2重巻きホース1本を展開	
経過5	当事者A,D	放水準備	
経過6	当事者B	揚水完了し、放水開始	
経過7	当事者A	放水と同時に保持していた管鎗が手から離れる	
経過8	当事者A	暴れている管鎗が頭部にぶつかり転倒	
経過9	当事者C	放水中の放口を直ちに閉鎖する	
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できなかった 資機材の操作がうまくいかなかった 後方からの監視が行き届いていなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなくてはならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

経験値が不足しているため、2重巻きホースの展張など基本的な訓練を実施。

○装備・資機材の対策について

管鎗が手から離れ暴れた際にホースが破断したため、ホースの破断原因をメーカーへ調査依頼した。
(異常はみられず)

○活動環境の対策について

特になし

○指揮・情報伝達の対策について

ポンプ車が放水した事を筒先員がしっかり把握できるよう伝令の徹底。

破断したホース写真



破断面（表）



破断面（裏）



ホース自主表示

模擬火災出動訓練状況



管鎗を持ち送水を待つ消防団員



該当ホースが、送水されていく状況



送水され放水を始める消防団員



この直後に消防団員の手から管鎗が離れてしまい、数秒間管鎗が暴れ、ポンプ車のすぐ近くにいた機関員以外の他の消防団員が、放口を閉めました。離れた管鎗が持っていた消防団員の頭部に当たり、負傷しました。このあとどの時点でホースが破断したか、その瞬間を見て確認した人はいません。